

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅡ

令和3年6月25日(金)

その3

## ◇ 「全校体育」で育まれる力

まん延防止重点措置へと移行したものの、愛知県の緊急事態宣言の解除により、「全校体育」が実施できる運びとなったことは、大変嬉しいことである。天気だけが心配だ。



規模は小さいにしろ、本年度初めての【全校行事】である。この「全校＝全児童が参加する」という部分が極めて重要で、様々な立場(学年)での経験を通し、それぞれの立場で児童が大きく伸びる「きっかけ」となる。

### <1年生>

6年間にわたる小学校生活での初めての全校行事である。しかも、「楽しさ」だけではない。「全校体育」には、【本気】【真剣】【勝負(競争要素)】が加わる。いつも優しい先輩の【本気の姿】【真剣な姿】【勝負をあきらめない姿】を目の当たりにすることとなる。

間近で見たかっこいい先輩の姿が脳裏に刻まれ、「あんなふうになりたい」という思いが一気に込み上げて、理想とする上級生像が明確となる。経験を通して、今までに味わったことのない思いを抱くことができるのは、【全校行事】であればこそ。大きく伸びる「きっかけ」となる。

### <2年生から4年生>

運動が「得手・不得手」「好き・苦手」の差はある。その中で、これまでの経験を思い起こしながら、一段高いレベルを目指して奮闘する。結果の良し悪しに関わらず、そこに至るまでの過程が重要。さらに大きく伸びる「きっかけ」となる。

### <5・6年の上級生>

中庸位置(中学年)から階段を一段上がった5年生。この一段は、「自覚」という要素が加わるため段差は高い。最上級生となった6年生の一段は、なおさらだ。「責任の自覚」に満ちた気持ちの高ぶりは、きびきびとした動きとなって



表出される。「行動」で、「背中」で後輩に手本を見せることで、自覚はさらに大きくなる。こうした目に見えない成長が、大きく伸びる「きっかけ」となる。

目に見えない【内なる成長】。「きっかけ」を転機に、さらに大きく伸びよ。